

離れていても

南部中・3 酒井 玲華

中学二年の十二月
私は未知の世界へ一歩踏み出した

中学二年の十一月
小学校の頃からの親友へ
誰よりも先に伝えた
「一緒に卒業できない。愛知に転校する。」
「! !。――。」

驚きが大きかったはずなのに
一人で故郷を離れる私のために
明るく送り出す
そう決意してくれた最高の親友

中学二年の十一月二十七日金曜日
来年度の生徒会役員立会演説会
親友は会長候補
演説は最後から二番目
私は誰よりも親友を応援していた
そして始まった親友の演説
得意な歌を披露する親友
胸を張って話す姿が誇らしい
私の自慢の親友
そして演説の最後
親友が言った一言

体に一本の衝撃が走った
身体の内側から感情があふれてきた
うるっ グッ まだ泣いてはだめだ

最後の帰りの会
親友からもらった
クラスのみんなからの寄せ書き
ポロポロポロポロ：
受け取る前 誰よりも先に
吸い寄せられるように
誰にも離されないほど強く
親友と抱き合った

帰り道
笑顔で別れたいのに止まらない涙
二人見合った
くしゃくしゃの顔

そして迎えた
中学三年の九月
今は引越してよかったと思える
だって離れていても最高の親友がいる
ありがとう これからもずっとよろしく
最高の親友 “すい” 3・9

生まれ育った故郷や親友と離れる
ことはつらかったと思います。しか
し、離れたからこそわかることもあ
るのでしよう。これからも二人の友

情がずっと続いていきますように。

(指導 稲石 みなみ)